anpanman museum

アンパンマン
ミュージアム
詩とメルヘン
絵本館

poem&märchen gallery

やなせたかしのふるさと

香美市立
やなせたかし記念館

©やなせたかし ©やなせたかし／フレーベル館・TMS・NTV

アンパンマン ミュージアム

高知県香美市香北町はアンパンマンの生みの親、やなせたかしのふるさと。この小さな小さな町にあるアンパンマンミュージアムは、アンパンマンが大好きなみんなの心のふるさとです。
ここには難しい絵はひとつもありません。順路もありません。
好きなところからぐるぐると自由に歩き回って、館内のあちらこちらに隠れているアンパンマンと仲間たちを探してみてください。

詩とメルヘン 絵本館

詩とメルヘン絵本館は、雑誌「詩とメルヘン」の創刊以来、やなせたかしが手掛けてきた表紙のイラストやカットを一堂に集めたギャラリーです。
小さいけれど、夢や喜び、愛、涙、そしてやさしさがぎっしりとつまった、アンパンマンミュージアムとはちょっと違った、もうひとつの「やなせワールド」なのです。
好きなものは好きと言おう。悲しいときは涙を流そう。嬉しいときは笑っていよう。そのままの思いを伝える、心のギャラリーです。

順路はありません。しかけがいっぱいのアンパンマンの世界を楽しもう！

ミュージアムを探検しよう！

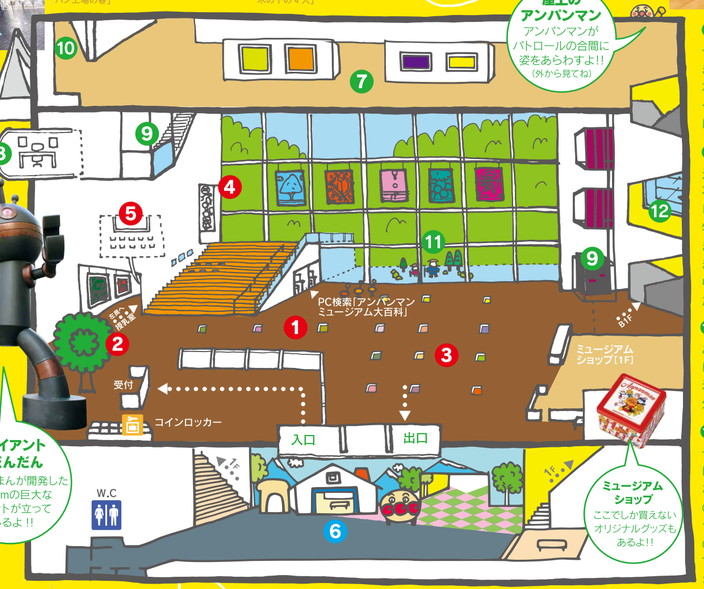
「パン工場の春」

「木の下の４人」

4F

⑦ やなせたかしギャラリー

やなせたかしが描くアンパンマンの世界を多彩に展示しています。このギャラリーのために特別に描きおろしたタブローや、ここでしか見ることのできない貴重な絵本原画も展示しています。



1F

① エントランス

3階まで吹き抜けの野外ステージを思わせるエントランスは、イタリアの中世都市・シエナのカンポ広場がモチーフになっています。ミュージアムショップでは、たくさんのアンパンマングッズも販売しています。もちろん当館だけでしか手に入らないオリジナルグッズもたくさん！

② かくれんぼの木

「アンパンマンのマーチ」が流れる大きならくがきかけ。毎正時におなじみのキャラクターたちが顔を出します。やなせたかしのタブロー「かくれんぼの木」がモチーフになっています。

③ AtoZ

AからZまで床のパネルを読み進めれば、あなたもアンパンマン博士に!! ここにしかない「アンパンマンの手形」もあります。

④ アンパンマンの大壁画

壁一面にアンパンマンと仲間たちが描かれています。一番下のアンパンマンは、3才くらいの子どもと同じ。アンパンマンの横に並んでみてね。

⑤ アンパンマンシアター

《それいけ！アンパンマン》の過去のアニメ作品を上映しています。いろんな仲間が登場して何が起こるかドキドキ、ワクワク。館内を歩き回って疲れたら、ぜひこちらでゆっくりしてください。

B1F

⑥ アンパンマンワールド

アンパンマンたちが暮らす町をミニチュアで再現したジオラマを中心に《それいけ！アンパンマン》の世界が広がります。パン工場には、アンパンマンの声が聞こえる電話やキャラクターの顔を焼くまど、バイキン城には、もぐりんの操縦席やフットセンサーではいきんまんたちが現れるモニターがあるなど、ゆかいな仲間たちと楽しく遊べるしかけがいっぱいです。

⑧ 名誉館長室

やなせたかしもお気に入りの、こじんまりとした名誉館長室。絵で描かれた本棚に並ぶ本のタイトルにも注目。一見すると名作本のようですが、実はどこかが違います。

⑨ 4階への階段＆エレベーター

光が差し込むとオレンジ色に色づく不思議な階段はドキンちゃん、むき出しになったピンク色と紫色の滑車が特徴的なエレベーターはばいきんまんをイメージした配色になっています。動き出したらエレベーターの中のドアスコープものぞいてみてください。

⑩ スロープ展示室

おしゃべりすると声が共鳴する、壁にいろいろなしかけがある小さな展示室。つきあたりのドアを開けると、外に出ることができます。

⑪ 野外ジオラマ

やなせたかしのタブロー「野菜村にはいるおむすびまん」がモチーフになっている立体ジオラマ。ジオラマの中には、原画には登場しないキャラクターも交じっていますので、4階のギャラリーにある原画と見比べて、どこが違うか探して見てみてください。

⑫ ガラスの収蔵庫

アンパンマンのキャラクターグッズを展示しています。おもちゃやぬいぐるみ、文房具、衣類など、これまで商品化された様々なグッズが並びます。さぁうちにあるアンパンマンと同じものが見つかるかな？

やなせたかし記念館へのアクセス

【車】〇高知市中心部より約60分〇高知龍馬空港より約40分〇高知自動車道南国I.C.より約35分 【電車・バス】〇JR土讃線・土佐山田駅のりかえJRバス大栃線で約25分 美良布（アンパンマンミュージアム）バス停下車徒歩約5分

開館時間

午前9時30分～午後5時（最終入館は午後4時30分まで） 毎週火曜休館

※火曜日が祝日の場合は翌日休館。

入館料

やなせたかし記念館共通	個人	団体（20名様～）
一　般	800	720
中 高 生	500	450
小人（3才～）	300	270

詩とメルヘン絵本館のみ	個人	団体（20名様～）
一　般	450	400
中 高 生	200	180
小人（3才～）	100	90

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかをご提示いただいた場合、手帳所持者とその介助者1名まで半額。
※企画展開催時は料金設定を変更する場合がありますのでご了承下さい。

やなせたかし記念館 敷地案内図

やなせたかし記念公園
高知特産のユズの木立に囲まれた絵本の休憩コーナー。やなせさんの像も建っているよ。

別館
年に1～2回、おもちゃや漫画をテーマにした企画展を開催。

遊具
晴れの日には、ミュージアムの外にも出てみよう。芝生の広場にはアンパンマンの遊具もあるよ。

香美市立
やなせたかし記念館
アンパンマンミュージアム & 詩とメルヘン絵本館
公益財団法人 やなせたかし記念
アンパンマンミュージアム振興財団
〒781-4212 高知県香美市香北町美良布1224-2
[TEL] 0887-59-2300 [FAX] 0887-57-1410
https://anpanman-museum.net/

漫画家を目指して

絵を描くために上京したやなせたかしは、高知新聞社時代に同僚だった小松暢と結婚。

1953〜

上京したやなせたかしは三越宣伝部に在籍後、フリーの漫画家として独立します。週刊朝日のマンガ賞を受賞した「ボオ氏」やサッポロビールのCM漫画「ビールの王さま」等の仕事を手がけながらも、大きなヒット作には恵まれず、頼まれるまま舞台演出や雑誌の編集、テレビ出演など様々な仕事をこなしていました。マルチタレントと評される一方で、漫画家としては長い間無名のまま苦悩する日々が続きました。
当時、自分自身を励ますために作ったのが「手のひらを太陽に」です。

絵本「あんぱんまん」の誕生

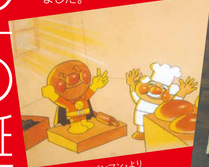
「12話のうちの1話にアンパンマンが収録されている「十二の真珠」(1970年サンリオ刊)

「それいけ! アンパンマン」(1975年)

「頭をあげるアンパンマン」

1969〜

やなせたかしは1969年にアンパンマンの原型になった短編童話を発表します。その後73年にフレーベル館のキンダーブックでも『あんぱんまん』を発表。当初は編集者にも不評だったアンパンマンでしたが、アンパンマンに対するやなせたかしの情熱はおとろえる事がなく、何度も媒体を変えて描き続けました。80年代には幼稚園・保育園で人気に火がつき、88年にはアニメ化されテレビ放送が始まりました。



『それいけ!! アンパンマンより
ジャムおじさんが焼いた新しい顔で元気を取り戻したアンパンマン。

大人向けの「怪傑アンパンマン」では、映画のフランケンシュタインをイメージさせる嵐の夜にバンと雷が落ち、アンパンマンに命が宿るところから始まります。

「詩とメルヘン」連載
怪傑アンパンマン

月刊『詩とメルヘン』でも、1975年から大人向けの読み物として「連載熱血メルヘン怪傑アンパンマン」が連載されていました。主人公はアンパンマンではなく、売れない漫画家ヤルセ・ナカユ。「やなせさんはやさせなく泣かす人ね」と、ある女優に言われた一言から名づけられました。
1977年に『連載熱血メルヘン怪傑アンパンマン』(サンリオ刊)として単行本化されました。

たたかうアンパンマン像
ミュージアムの開館15年を記念して建てられた全長5mの像です。

収蔵庫

やなせたかしの絵画作品や「詩とメルヘン」ゆかりの作家の作品など約2,000点を収蔵しています。壁面に描かれたアンパンの顔の大きさはなんと約9m!

「Pencil Peninsula」

「星の木の下で星の実をひろう青い夜」

「美しい五月となれば風はそよぎ木は緑」

「おろしたてのパレットに似る初夏の蝶」

漫画家の絵本の会

1972

やなせたかしと前川かずおの立案で発足した「漫画家の絵本の会」。むずかしい規則も厳しい審査もない、ただ絵本が好きな漫画家が集まってできた自由な会です。
それまでほとんど絵本を発表していなかった、やなせたかし。この会での活動が、現在の「絵本作家・やなせたかし」を作ったといっても過言ではありません。

漫画集団の同人でもあった手塚治虫氏から依頼され、美術監督としてアニメ映画『千夜一夜物語』の制作に参加。そのヒットのお礼として、虫プロが制作したのが、やなせたかしの初アニメ映画『やさしいライオン』です。

雑誌「詩とメルヘン」

1973

やなせたかしのもう一つのライフワークである雑誌『詩とメルヘン』。創刊から30年間すべての表紙画を描き、編集も自身で行いました。鈴木三重吉が創刊した雑誌『赤い鳥』の精神世界を継承しながら、新しい抒情の世界を創作することに力を注ぎました。世界的にも珍しい読者からの投稿主体の雑誌で、同誌からは日本を代表する数々のプロのイラストレーターや詩人を輩出しました。

「詩とメルヘン」創刊号

「いちごえほん」

詩とメルヘン絵本館

やなせたかしの描いた雑誌「詩とメルヘン」の表紙原画や挿絵をはじめ、詩、漫画など多彩なやなせたかしの世界を紹介しています。年に2〜3回の企画展も開催。『詩とメルヘン』ゆかりの作家や国内外の絵本作家等の原画展を開催します。

やなせたかし PROFILE

1919年——2月6日生まれ。高知県香美市香北町出身
東京高等工芸学校工芸図案科卒業。東京田辺製薬、高知新聞社、三越宣伝部を経て、フリーの漫画家となる
1961年——「手のひらを太陽に」作詞(いずみたく作曲)
1966年——詩集『愛する歌』を山梨シルクセンター(現 サンリオ)より出版
1967年——コマ漫画『ボオ氏』週刊朝日マンガ賞
1973年——詩と絵と漫画の雑誌『詩とメルヘン』(サンリオ)創刊、翌年より月刊誌となる('73〜'03)。フレーベル館の月刊絵本「キンダーおはなしえほん」に『あんぱんまん』を掲載
1988年——日本テレビ系列でテレビアニメ『それいけ! アンパンマン』放送開始
1990年——「アンパンマン」第19回日本漫画家協会賞大賞
1991年——勲四等瑞宝章
1994年——高知県香美郡香北町(現・香美市)名誉町民
1995年——「アンパンマン」第24回日本漫画家協会賞文部大臣賞
1996年——「やなせたかし記念館 アンパンマンミュージアム」開館
1998年——「やなせたかし記念館 詩とメルヘン絵本館」開館
2009年——『それいけ! アンパンマン』が単独のアニメーションシリーズの登場キャラクター数(1,768体)でギネス世界記録に認定される
2011年——高知県名誉県民顕彰
2013年——10月13日永眠(享年94歳)
2014年——やなせたかしと暢夫人の眠る「やなせたかし朴ノ木公園」完成
2016年——幼少期を過ごした南国市に「やなせたかし・ごめん駅前公園」完成